

TAD Letter | 16



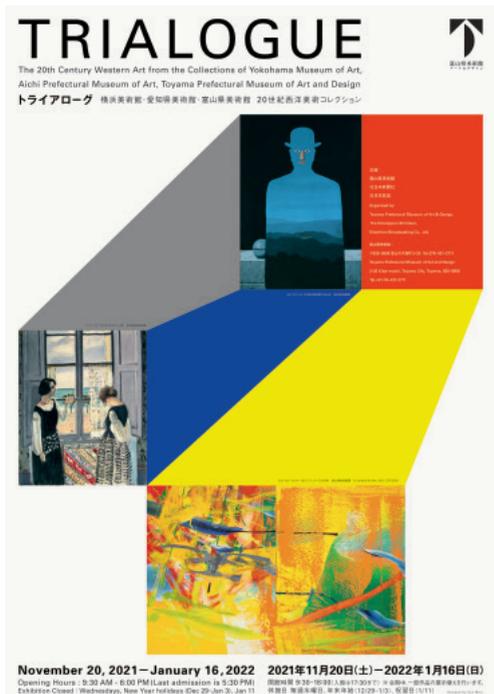
富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

トライアローグ

横浜美術館・愛知県美術館・富山県美術館 20世紀西洋美術コレクション

2021年11月20日(土) - 2022年1月16日(日)



企画展「トライアローグ」ポスター Design:三木健

本展は、横浜美術館、愛知県美術館、富山県美術館による「トライアローグ」(3者による話し合い・鼎談)により、それぞれのコレクションを組み合わせて20世紀西洋美術の歴史を振り返る展覧会です。

3館はいずれも1980-90年代の開館以来、20世紀の西洋美術の充実したコレクションを築いてきた公立美術館です。その名品揃いのコレクションから、ピカソ、クレー、ミロ、エルンスト、ダリ、マグリット、ポロック、ベーコン、リヒターなど、20世紀美術史を彩った巨匠たちの作品を厳選し、絵画を中心に約120点をご紹介します。展覧会では、30年区切りの全3章で、美術史上の激動の時代と言うべき20世紀美術の流れをたどります。また、3館共通で所蔵するアーティストの作品に焦点を当てる「Artist in Focus」のコーナーなど、3館共同企画ならではの視点で作品の魅力をお伝えします。

3館のコレクションが語らうように織りなす、充実の展示をご堪能ください。

開催概要

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)
 休館日 毎週水曜日、12月29日・1月3日、1月11日
 会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4
 主催 富山県美術館、北日本新聞社、北日本放送
 観覧料 一般900(700)円、大学生450(350)円、高校生以下無料、一般前売り700円
 ※ ()内は20名以上の団体料金

関連イベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

展覧会図録

『トライアローグ 語らう20世紀アート』(左右社、2020年)全328ページ
 70作家123点の全作品解説をはじめ、美術館コレクションにまつわる論考、学芸員による鼎談、マンガ『ブルーピリオド』番外編まで盛り込んだ、ボリュームたっぷりの1冊です。



01



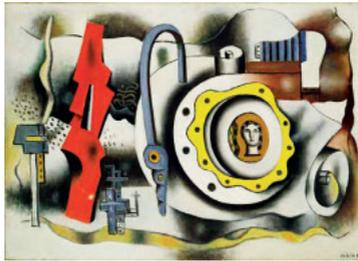
02



03



04



05

- 01 コンスタンティン・ブランクーシ《空間の鳥》1926年(1982年鑄造) 横浜美術館蔵
- 02 ジャクソン・ポロック《無題》1946年 当館蔵
- 03 イヴ・クライン《肖像レリーフ アルマン》1962年原型制作 愛知県美術館蔵
- 04 パウル・クレー《女の館》1921年 愛知県美術館蔵
- 05 フェルナン・レジェ《コンポジション》1931年 横浜美術館蔵

01

横浜美術館

西洋美術の収蔵品の中心を占める両大戦間美術のうち、最大の見どころはなんといっても、エルンスト、ダリ、ミロ、マグリット、デルヴォーらシュルレアリスムの作家の作品群です。本展を通して、その水準の高さと個々の作品の魅力を再確認してください。(学芸員 松永真太郎)

02

愛知県美術館

古株の作品も良いですが、レジェやムンク、バルテュスなど、2010年代以降新たにコレクションに加わった作品にもご注目。値上がりで購入資金減でどの館も欧米美術のコレクション拡充が難しい昨今、寄附や寄贈のおかげで展示の幅をぐんと広げられています。(学芸員 副田一穂)

03

富山県美術館

当館コレクションでは、特に第二次世界大戦後のポップ・アートや、制作後間もない時期に購入されたベーコンやリヒターらの作品にご注目ください。富山県外から来られた方からは、「なぜこんな作品が富山に!？」とびっくりされることも多いんですよ。(学芸員 碓井麻央)

絵本原画ニャー！ 猫が歩く絵本の世界

2022年1月29日(土)～3月6日(日)



町田尚子『ネコゾメのよる』WAVE出版 2016年

絵本には、たくさんの子供たちや動物が出てきます。数ある登場人物(動物)の中でも猫は人気者で、みなさんも子供の頃に読んだ絵本で、たくさんの猫に出会ってきたのではないのでしょうか。

本展は、絵本に登場する個性あふれる「猫」達にフォーカスした展覧会です。出品作家には、パウル・クレーに師事したハンス・フィッシャーのほか、手塚治虫、福井英一らと「児童漫画界の三羽鳥」と呼ばれ、50年以上にわたるロングセラーシリーズ『11ぴきのねこ』の作者として知られる馬場のぼる、世界最大規模の絵本原画展「ブラティスラヴァ世界絵本原画展」で金のりんご賞

を受賞したきくちきなど、よく知られる絵本作家から、これからの活躍が期待される若手の絵本作家まで、15組による絵本原画とその資料約250点をご覧ください。作者が絵本のために直接手掛けた原稿(画稿とも)である絵本原画には、かすれやにじみ、色の鮮やかさなど、印刷では再現できない深みがあり、筆跡や部分的な修正箇所など、完成した絵本には見られない作家の息遣いが感じられるでしょう。絵本原画にみる表現の面白さや豊かさに触れ、絵本を読む時とは異なる印象を感じていただくとともに、のんびり猫達と過ごす時間をお楽しみください。

開催概要

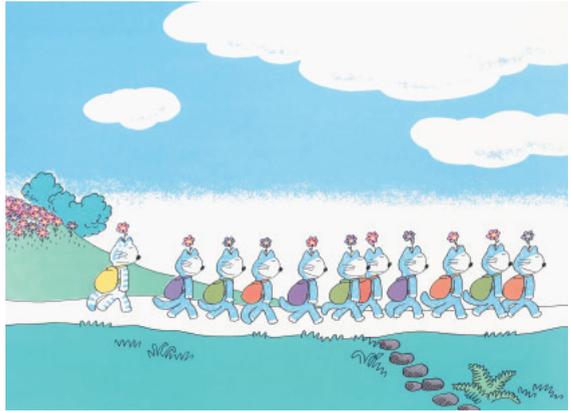
開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休館日 毎週水曜日(2月23日は開館)、2月24日
会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催 富山県美術館、富山新聞社、富山テレビ放送
観覧料 一般900(700)円、大学生450(350)円、高校生以下無料、一般前売り700円
※ ()内は20名以上の団体料金

関連イベント

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。



100%ORANGE『ねこのセーター』文溪堂 2016年



馬場のぼる『11びきのねこ ふくろのなか』こぐま社 1982年



石黒亜矢子『ばけねこ そろそろ』あかね書房 2015年

01

15組の絵本作家たちによる、個性豊かな絵本の中の猫たちに出会える

02

子供から大人まで、幅広い年齢層の方々が楽しめる親しみやすい展覧会

03

展示されていた原画の絵本を読めるコーナーで、絵本の物語も楽しめる

TADワークショップ アンビグラムでメッセージカードを作ろう

2021年7月17日(土)、3階アトリエにて、画家・アンビグラム作家の野村一晟氏を講師にお招きし、ワークショップを実施しました。

アンビグラムとは、回転させるなど、見る角度を変えることで別の何かを発見するアートです。野村氏は、日本語によるアンビグラム作品で近年注目を集め、メディアでもしばしば取り上げられています。



ワークショップでは、アンビグラムの基本的な作り方を教えていただいた後、各自の思い思いの言葉で作品制作を行いました。アンビグラムの制作は、想像以上に高度な経験と技術が要されるため、言葉選びから四苦八苦する参加者が少なくありませんでしたが、野村氏の丁寧な指導で素敵な作品がいくつも生まれました。



ワークショップ時の様子 (右写真撮影：柳原良平)

TADワークショップ あなただけの「住む」をつくろう!

2021年8月1日(日)、3階アトリエにて、アーティストの上坂直氏を講師にお招きし、中学生以下の子どもを対象としたワークショップを実施しました。

今回のワークショップで作られた作品は、美術大学で建築を学んだ上坂氏による、衣装ケースの中に人々の暮らしの空間のミニチュアを制作する作品が元となっています。

9cm四方のアクリルキューブの中に壁や天

井のパーツを組立てた後、アトリエ内に並べられたビーズやハギレ、発泡スチロールの玉などの素材を組み合わせて、家具やカーテン、カーペットなどを作ります。最後にガラス戸のパーツに、裏側から人や動物などのシールエットを描き入れて作品が完成です。

完成した作品は積み重ねてマンションのように飾り、参加者それぞれの思い描く小さな「住む」を鑑賞しあいました。



ワークショップ時の様子 (写真撮影：柳原良平)

富山県美術館をもっと楽しもう！

大空間で映画鑑賞会

Kino Iglu(キノ・イグルー)×富山県美術館

東京を拠点に、全国のさまざまな空間で世界各国の映画を上映する移動映画館「Kino Iglu」が、富山県美術館にやってきます。美術館の開放的な大空間で、映画鑑賞を楽しみませんか？

開催日 2021年12月11日(土)・12日(日) (予定)

※詳細は決定次第、当館ウェブサイト・SNSでお知らせします。

会場 2階ホワイエ(予定)



過去イベント時の様子

富山県美術館SNS紹介

見どころ&さまざまな情報を動画で！

公式YouTubeチャンネルで新企画

展示会の記録やトークなどのイベント、家庭でもできる創作活動などの動画を紹介中の当館YouTubeチャンネルにて、美術館の魅力をもっと知るための新企画がスタート予定！企画展の見どころをはじめ、富山県美術館を楽しめる動画をお届けします。



▶富山県美術館で検索！

※そのほか富山県美術館SNSアカウント

Twitter : @toyamakenbii

展示会や美術館の情報を随時更新！混雑状況など、即時性が求められる情報も流しています。

Facebook : tad.toyama

展示会や美術館の情報を随時更新！少し長めの文章で展示会やその作品をご紹介します。

N
E
W

Instagram : tad_toyamakenbi

写真だからこそ伝えることができる美術館の魅力を発信！

N
E
W

Twitter : @tad_ws

ワークショップ参加者の作品など、アトリエでの活動成果をご紹介します！

当館ホームページに、各SNSへのリンクがあります。ぜひ一度のぞいてみてください。

サンティアゴ

大竹伸朗

1985年
ミクストメディア
190.0×370.0cm



巨大な画面に、新聞紙や雑誌、タイヤのチューブ、瓶のふたなどが貼り付けられている。日常から生まれた廃物が使われているのだが、雑然とした街角の風景が目前に現れたかのようである。印刷物が幾重にも貼り重ねられ、さらにその上から激しいストロークでの筆致も見られる。引っ掻いたようなイメージや文字も刻まれ、古い壁の落書きを想起させる。

大竹伸朗(1955年東京都生まれ、愛媛県在住)は、1974-80年にかけて北海道、イギリス、香港に滞在、1979年に初作品発表後、国内外での個展、グループ展で発表し、絵画、立体、写真、音楽、絵本、ポスター、エッセイなど多彩な活動を展開している。

大竹は何かを「貼る」ことをライフ・ワークとしている。初めて渡英したロンドンで手に入れた大量のマッチのラベルに触発され、以来、印刷物を貼る「スクラップ・ブック」を制作している。世界各国の旅先、東京、宇和島での大竹の日常から拾い集められた物を貼り合わせたコラージュの「作品集」であり、大竹の創造の核となるシリーズである。

「スクラップ・ブック」に象徴されるように、大竹の作品は、作為を避け、衝動的、かつ即興的で、偶然性を求め、日々流れてゆく「時間」そのものを拠り所としている。本作においても、画面の構成には中心と周辺といった関係性はなく、また廃物に対する制作意図を声高に主張することもない。ただ、偶然と衝動のもと結びつけられた、いくつものイメージの断片、いくつもの「時間」が展開されている。大竹は本作について、「便所の壁をモチーフに描いた」という。ロンドンやパリ、香港などで、興味を惹かれる便所壁に出会い、時空を超え、過ぎ去った時代に生きた人間の営みさえも感じるがあったという。落書きだらけの誰も見向きもしない壁は、通常の美術の鑑賞環境とは対極にあるといってもいい。また、便所の壁の染みや亀裂、貼られたチラシ、いたずら書きが織りなす、作為なき創造のコラボレーションは、大竹の理想でもあった。意識的な制作意図を超え、壁のように存在する大竹の作品は、ユーモラスで魅力的である。ありふれた日常から世界は開かれていくと強く感じさせてくれる。

(普及課長 麻生恵子)

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>